（　石井　通春　議員　２－１）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 令和　２年　　月　　日　　　　　時　　分受理 | | 受付順位 |  |
| 発言順位 |  |
| **発　　言　　通　　告　　書**  　　藤枝市議会議長　　大石　保幸様  　　　　　　　　　　　　　　　　藤枝市議会議員　　　１７番　石井通春　㊞  　　次のとおり通知します。 | | | |
| 発言の種類 | 代表質問　　　一般質問　　　緊急質問 | | |
| １. 標　題 | 来年度の市のコロナ対策  ～市民が求める情報公開を  　ワクチン安全性の十分な確認とPCR検査の更なる充実  　オリンピック事業は一旦立ち止まっての検討を～  　　　　　　　　　　　　答弁を求める者（　市長　） | | |
| コロナに対する国の姿勢が批判を浴びている一番の原因は、一向に終息の兆しが見えない現実にある。その中で各地域の自治体がその地域に応じた独自の施策を実施しておりその中には検証に値する様々な科学的根拠が提示されているケースもある。  　本市の現在の状況と示された来年度予算案の中でさらに改善し市民が求める市のコロナ対策が前進するよう下記質問をする。   1. 市民が求める十分な情報公開を   １：感染症対策で重要なことは、不確かな情報に踊らされず、過剰に反応しないことである。同時に自治体の基本的な役割は、市民が知りたい情報を正確かつ迅速に伝える事ではないか。  ２：現在、市は市民に対して県が発表している情報を軸とした情報提供しかしていない。少なくとも感染症対策分科会がまとめた6指標（病床の逼迫、10万人当たりの療養者数、陽性率、10万人当たりの新規報告数、直近一週間と最近一週間の比較、感染経路不明割合）や検査数、重症者数等は市民に対して公表すべき事項ではないのか。  ３：静岡市は上記事項を公開している。政令市で行える事が他市で実施できないのは不合理ではないのか。市は県が公表しないからという理由で本市の情報を求めないのは市民の立場に立っていると言えるか。  ４：同じ災害でも水害や地震は各地域ごとの状況や予測が詳しく市民に知らされ有効活用されている。この点で現在のコロナの情報公開が極めて不十分であり課題として捉えていく状況ではないか。   1. ワクチン安全性の確認とPCR検査の更なる充実を   １:4月から高齢者と基礎疾患者、5月からそれ以外の方への接種開始が今予算で示されているが、安全性と有効性の十分な確認が国民に対して十分に公開されていない中で、多くの市民は不安が先行している。実際に接種を進める際には医師・看護師の体制の確保の見通しと同時にこの点市民に対しどう説明を進めていくか。  ２：今年から実施している高齢者入所施設感染対策は一歩前進だが、まだごく一部の実施にとどまる。今予算（1500万）で全対象者中どれ程まで進められるのか。家族内感染に次いで感染原因2位となっている「施設内感染」を食い止めるのに十分な対策となっているか。   1. オリンピック事業は一旦立ち止まっての検討を   １：どの世論調査でも国民の8割は開催の中止か延期を求め、今年7月の開催を望んでいない。今予算ではオリンピック関連経費7000万以上が計上されているが、開催ありきではなくゼロベースから再検討の上、執行は慎重にすべきではないか。  ２：アスリートの立場からも開催は現実的ではない点について  開催の前提となっているワクチンは一部の国で接種が始まったものの、今年中の世界全体での集団免疫の達成は「ありえない」（ＷＨＯ主任科学者の発言）点、各国の感染状況の違いによる練習環境などの格差、ワクチン接種での先進国と途上国の格差を挙げ、『アスリート・ファースト』の立場からも開催できる条件はない点、大会期間中、1万人もの医療従事者が必要とされ半年後に多数の医療従事者を五輪に振り向けるのは不可能など、開催は現実的ではない点について市はどう説明するか。 | | | |